

設 立 趣 旨 書

1 趣 旨

障害や発達に特性のあるこどもたちが、社会の中で多くの人と関わり見守られながら、のびのびと成長していくためには、公的な福祉サービスと共に、様々な活動の場が地域の中にあり、誰もが自由に参加できることが大切です。私たちは、こどもたちが自分のやりたいことを実現しながら成長し、地域の中で豊かに生活していくために、『余暇活動の充実』が大切と考えています。そのために、主に『食』を中心とする活動を通じて、調理の計画や準備も含めて、当事者が、社会の仕組みを自分の力で活用して生活を営む体験を継続的に実践できる環境を作りたいと思います。その中で、当事者だけでなく、『食』を取り囲むように、地域住民、福祉や医療、教育などに興味がある学生など、多様な人が集まり障害を持つ人を支えながら、障害の有無に関わらず、年齢や役割、立場を超えて、みんなで学び合う対等な関係が育つ活動をしたいと思います。

生活は連続して流れ、積み上がっていきます。私たちは、生まれて成長していく中で、保育園や幼稚園に入り、小学校、中学校、高校、大学や専門学校を卒業して、社会人となり地域の中で生活していくという大きな流れがありますが、公的な制度は、乳幼児期、未就学期、就学期、成人期で制度が変わり、利用できるサービスが分かれているために、障害などを持つ子どもたちはこの大きな流れが分断され、友人や知人との出会いや交流が細切れで積み上がり難い現実があります。私たちは活動の対象を、就学期から成人までとすることで、友人や知人との交流が途切れずに積み上がり、多様な立場の人が障害の有無に関係なく参加できる場を作りたいと思います。

2 申請に至るまでの経過

私たちは、障害を持つ児童の通所施設『放課後等デイサービス』で働く中で様々なことを体験しました。その中で、こどもたちが18歳になり施設や学校を卒業した後、学生の頃から共に過ごしてきた友人たちと、日常的に交流する事が難しくなると知りました。理由として、障害や発達に特性のあるこどもは、自宅、学校、通所施設の間をスクールバスや送迎車で移動する事が多く、公道や公共交通機関を利用して交通ルールを学ぶ機会や、放課後や休日に、家族や大人から離れて余暇を過ごす経験が乏しく、大人を介さずに友だちと関わる体験も少ないことが考えられます。

放課後等デイサービスの卒業生が増え始めた頃、私たちは有志で、月に一度公民館の調理室を借り、卒業生が集まって『夕食を作る活動』を始めました。すると卒業生から「友だちと会い、買い物や料理をするのが楽しみで、次に何を作るか毎日考えている」という言葉があり『食べる』ことを通じて社会とつながり、社会の中で生活を営む体験をする大切さを感じ、改めて、定期的に集まり顔を合わせて、仲間と一緒に楽しく食べる余暇活動を続けたいと思いました。また反面、一人での参加が難しい人は、当初ご家族が連れて来ていましたが、ご家族に負担がかかるために徐々に足が遠のき、最終的には自力で来られる数名に減ってしまう体験もしました。そのことから、社会に出て、自分の行きたいところへ行き、会いたい人と会い、好きなことをしながら、余暇を楽しみ人生を豊かに過ごすために、『こどもの頃から社会の中でルールを学ぶ機会』や『ヘルパーさんやボランティアさんと外出する力』も大切だと考えています。私たちは以上の活動ができる場所や機会を作りたいと考え、この法人を設立します。

令和 5年 4月 1日

NPO 法人でこぼこみち
設 立 代 表 者 松浦 百合子